



J R 西日本執行役員京都支社
蔵原 潮 支社長



中嶋 武 嗣 市長

対談

まちづくりについての公共交通

甲賀市は、J R、近江鉄道、信楽高原鐵道の3路線が走る公共交通の要所です。特にJ R草津線は開業が122年前の明治23年2月19日とその歴史は古く、長年にわたり多くの人・モノ・情報を乗せて走り続けてきました。これまで市の発展を支えてきたJ R草津線が、これからも市民にとってかけがえのない公共交通機関としての役割を果たし続けるためには、これからも沿線地域をはじめとしたまちのさらなる発展が望まれます。

今回、草津線を管轄するJ R西日本執行役員京都支社 蔵原 潮支社長と、まちづくりについての公共交通について中嶋市長と対談いただきました。

中嶋市長― J R西日本様には、草津線の安全輸送にご尽力いただき、また、当市の第三セクター信楽高原鐵道に対してもご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

西日本の表玄関口の役割を

蔵原支社長― 甲賀市の皆様には、日頃より草津線をご利用いただいておりますことに御礼申し上げます。
市長とは、今年7月の信楽高原鐵道25周年の記念式典に席を同じくし、その後8月にもお会いしておりますが、ゆっくりとお話をさせていただく時間を楽

そうございます。
当市は、東海道の宿場をはじめとする観光資源に恵まれる一方で、新名神やJ R、近江鉄道、信楽高原鐵道などの交通網を活かし、企業立地や宅地開発が進んでいます。工業出荷額は5年連続県1位を誇り、県下最大の「ものづくりのまち」として今後も発展が見込める地域です。
また、J R草津線が三重県へ接続していることから、甲賀市が西日本の表玄関口としての役割を果たしていくことが、今後のまちづくりにおいて重要であると考えており、そのためにもこれまで以上に公共交通の維持・活性化を図っていくことが大切だと思っております。

また、近畿エリアでは、お客様に安心して繰り返しご利用いただける輸送品質の高い鉄道をつくり上げることを目標にしていますが、そのためには弊社自らの企業努力に加え、他の公共交通機関と連携して交通ネットワーク全体のシームレス化を図ることや、自治体や地域の皆様と協働して、沿線のまちづくりと一体となった施策を展開していくことが極めて重要になります。

しみにしていました。
私どもは、現在推進中の「中期経営計画」において、「地域との共生」を新たな戦略の一つとして掲げています。現在の人口減少や今後の社会情勢から鉄道を取り巻く環境を考慮しますと、地域の皆様と一緒に課題を解決していくことが大切に

中嶋市長― そういう意味で意見交換できることは意義深いことです。当市の公共交通網を活かした観光戦略の一つとして、新名神高速道路を活用した観光誘客事業に取り組んでいます。鉄道においては、特に貴生川駅はJ R草津線、近江鉄道、信楽高原鐵道の3路線が交わる県内でも特徴のある駅であるといえます。交通結節点である貴生川駅は、地理的優位性を活か

ば、これからの当市発展の鍵を握る場所だと思います。

貴生川駅をはじめ、草津線沿線の活性化は、2世代3世代にわたりこの地に住み続けられる「持続可能なまち」づくりになくしてはならないものです。そのためにも、沿線地域への企業誘致や宅地開発等を行い、定住利用者を増やしていく取り組みを進めるつもりです。沿線の企業誘致については、これまでのよう

な大規模団地を形成し誘致を図るのではなく、沿線地域の土地利用を考慮し、企業のニーズを捉えながら、企業進出を支援する「オーダーメイド型」が適していると思っております。宅地開発も同様に、これまでの丘陵地への開発から鉄道沿線に誘導していくなど公共交通利用促進を意識していくべきです。そのために、関連法令、条例の改正や検討も行っていく構えです。

地域と鉄道の発展には3つのことが大切

蔵原支社長― 貴生川駅は、1日約8,500人の方にご利用

用いただき、草津線のなかでは、草津駅を除くと一番ご利用者の多い駅です。近江鉄道、信楽高原鐵道のほか、コミュニティバスとの乗換駅でもあり、甲賀市の公共交通の中心的な役割を担っていると認識しています。市のご協力をいただき、両側の立派な駅前広場に加え、平成14年にバリアフリー設備が整備されるなどご利用しやすい環境が整っており、駅周辺で、企業や住宅の立地が進めば、よりたくさんの方が集まり、公共交通の活性化につながります。
私は、地域と公共交通の持続

的な発展を実現していくためには、二つのことが大切だと考えています。一つは、駅を核とした住みやすいまちづくりを推進し、沿線人口を増加していくこと。二つ目は、鉄道を含めた公共交通全体のネットワーク機能を強化し、マイカーから公共交通へのシフトを図ること。三つ目は、地域の魅力ある観光資源に関する情報を域外に発信し、広域から観光客を誘致することです。生産年齢人口の減少に伴い、公共交通機関の経営は大変厳しく、便数や路線の維持が難しくなってきたところもあります。このままマイカー中心社会が進み、公共交通が衰退してしまうと、高齢の方の移動手段がなくなってしまうことにもなりかねません。利便性だけでなく、地域社会で公共交通が果たしている役割や環境への優しさを考え、できる限り公共交通をご利用いただくことで維持していくことができます。
甲賀市では、職員の方が率先して公共交通を利用されるエコ通勤を実施されているとお聞きしています。素晴らしい取り組みが市民の方にまで広がり、行政や事業者と市民の皆様が連携できれば、公共交通のさらなる